令和元年　１１月　２２日

平成３１年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成３１年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成31年4月18日（木）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，英語，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　８６人

②　算数　８６人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており，実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

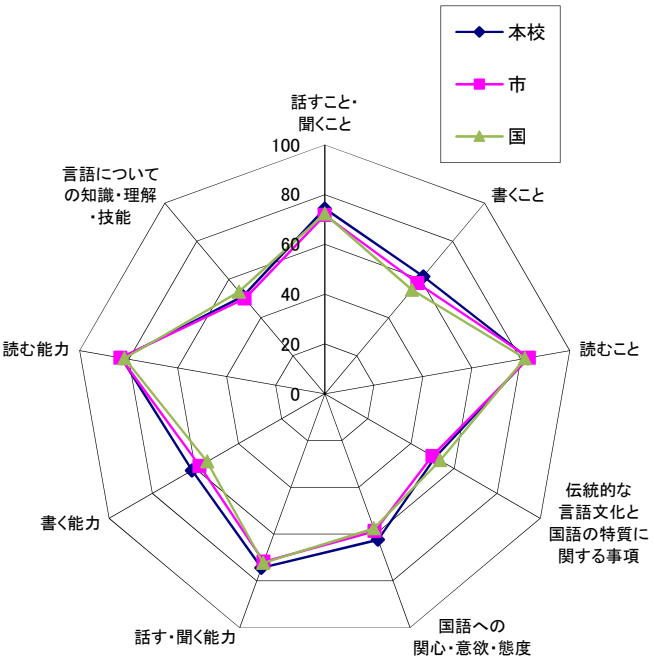
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	74.4	71.8	72.3
	書くこと	61.6	58.0	54.5
	読むこと	82.9	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	51.2	50.0	53.5
観点	国語への関心･意欲･態度	62.4	58.7	57.6
	話す･聞く能力	74.4	71.8	72.3
	書く能力	61.6	58.0	54.5
	読む能力	82.9	83.3	81.7
	言語についての知識･理解･技能	51.2	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

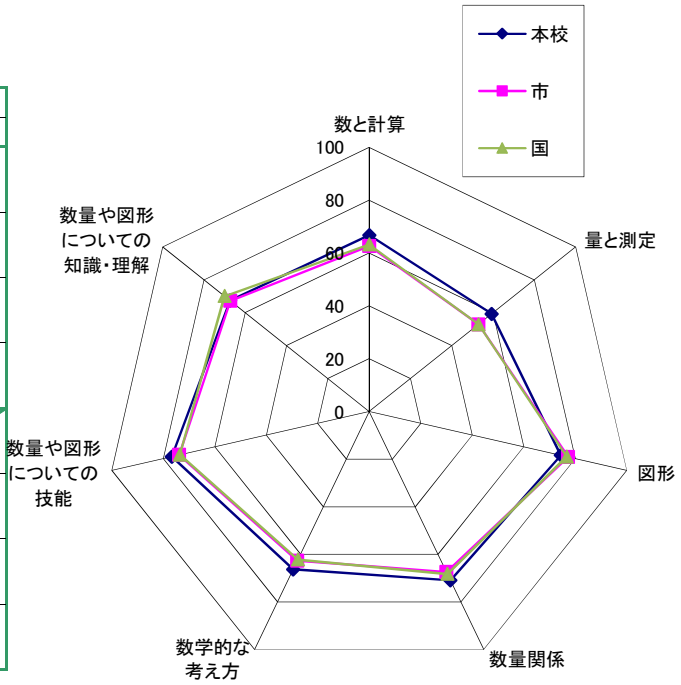
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は，全国平均より2．1ポイント高い。 ○話し手の意図を捉えながら聞き，自分の考えをまとめることがよくできている。授業の中で，話合い活動を多く取り入れてきた成果であると考えられる。 ●目的に応じて，質問を工夫することについて，課題が見られる。	･今後も，相手や目的及び意図などに応じて決定した話題について取材し，話したり聞いたりすることを適切に行う活動を取り入れていく。
書くこと	平均正答率は，全国平均より7．1ポイント高い。 ○情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることや，目的にや意図に応じて，自分の考えの理由を明確にし，まとめて書くことがよくできている。「書く」単元での目標を確実に押さえた指導の成果であると考えられる。	･今後も，「書く」単元の学習で学んだことを，各教科の調べ学習や新聞作りなどで生かし，自分の課題について調べ，意見や報告などを書いたり編集したりする活動を取り入れていく。
読むこと	平均正答率は，全国平均より1．2ポイント高い。 ○目的に応じて，文章の内容を明確に押さえ，自分の考えを明確にしながら読むことがよくできている。説明文で，要旨を捉える活動や，事実と意見の関係を押さえる活動などにしっかり取り組んだ成果であると考えられる。	･今後も，目的に応じて，複数の本や文章などを選んで比べて読む活動を取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は，全国平均より2．3ポイント低い。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことや，文と文との意味のつながりを考えながら，接続語を使って内容を分けて書くことに課題が見られる。	･今後も，漢字の読み書きや使い方など，練習や確認を続け定着を図り，文や文章の中で使うように指導していく。また，接続語が，文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し，使えるように指導していく。

宇都宮市立緑が丘小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	66.8	62.7	63.2
	量と測定	59.3	52.9	52.9
	図形	74.4	77.3	76.7
	数量関係	70.9	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	66.3	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	76.7	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	67.4	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，全国平均より3．6ポイント高い。 ○加法と乗法の混合した整数と少数の計算が，よくできている。計算方法の定着が見られ，少人数指導の成果であると考えられる。 ●示された除法の式の意味を理解することに課題が見られる。	・小数及び分数の四則計算のまとめの段階に当たるため，今後も形成プリントや計算ドリルを活用し，定着を図る。
量と測定	平均正答率は，全国平均より6．4ポイント高い。 ○示された図形の面積の求め方の記述や，資料の特徴や傾向から一人当たりの水の使用量の増減の理由の記述についてよくできている。身の回りにある様々な量の単位と測定についての理解が見られ，少人数指導の成果であると考えられる。	・今後も，単位を用いて量の大きさを表すことの有用性に気付いたり，目的に応じて適切な単位を選んで測定したりできるように指導していく。
図形	平均正答率は，全国平均より2．3ポイント低い。 ●図形の性質や構成要素に着目し，ほかの図形を構成することに課題が見られる。	・図形学習における作業的・体験的な活動をていねいに扱い，図形に関する問題解決の際に，問題を把握したり，解決の見通しを立てたりすることができるように指導していく。
数量関係	平均正答率は，全国平均より2．6ポイント高い。 ○棒グラフから，資料の特徴や傾向を読み取ることがよくできている。授業で，目的に応じて表やグラフを選んだり，読み取ったりするなどの活用によく取り組んだ成果だと考えられる。 ●目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことに課題が見られる。	・授業で，比，比例の関係について式，表，グラフを用いて特徴を調べ，比例の関係を用いた問題に取り組むことで，伴って変わる二つの数量の関係を考察し，特徴や傾向を表したり読み取ったりできるように指導していく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問では，児童の肯定割合が93．1％で全国平均よりも21．6ポイント高い。これは，家庭学習や自主学習の定着を図ってきた成果だと考えられる。工夫された自主学習を紹介し合ったり，予習・復習を行う際に，授業の内容を意識することの大切さについて理解を深めてきたりした成果と考えられる。
　今後も，家庭学習を継続して行い，内容や方法を交流したりするなど，工夫した活動を行っていきたい。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問では，児童の肯定割合が86．1％で全国平均を18．1ポイント上回り，「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問では，児童の肯定割合が73．2％で，全国平均を18．7ポイント上回っている。これは，普段の授業でのボランティアの方々の協力や総合的な学習の時間での地域に関する学習の成果によって，地域への愛着が高まっている結果と考えられる。
　今後も，児童が地域の一員であることを自覚し，地域に愛着をもちながら様々な活動に取り組むことができるよう，ボランティアの方々の協力をいただきながら指導をしていきたい。

○「5年生までに受けた授業で，コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」という質問では，58．2％と全国平均を27．6ポイント上回っている。タブレット型端末の導入やデジタル教科書，実物投影機の活用機会が増えたことにより児童の意識が高まった成果と考えられる。
　今後も，効果的な活用方法を研究しつつ，情報収集や活用の機会だけでなく，各教科の基礎的な内容の定着や発表のための提示資料の作成など，様々な場面で活用することができるように指導を工夫していきたい。

○「あなたの学級では，学級生活をよりよくするために学級会で話し合い，互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」という質問では，児童の肯定割合が95．3％で全国平均を21．3ポイント上回り，「学級活動における学級での話合いを生かして，今，自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか」という質問では，児童の肯定割合が94．2％で，全国平均を20．8ポイント上回っている。これは，児童が学級をよりよくするための話合いを自主的かつ積極的に進めてきた成果と考えられる。
　今後も，話合い活動を効果的に活用しながら，学級をよりよくするだけでなく，自分が努力すべきことへの意識を高めることで集団の質を向上させられるよう指導していきたい。

●「読書は好きですか」という質問では，児童の肯定割合が67．5％と全国平均を7．5ポイント下回っている。平日本を読まない児童も25．6％いる。
　本を読まない児童の割合と学校図書室・地域の図書館に行かない児童の割合が同じであることから，今後は，図書室を利用する機会を増やしながら，本に親しむ環境を整えていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを分かりやすく表現する力の育成	全ての学年で，ペアやグループで互いの考えを伝え合ったり，相談したりする場を意図的に設けたり，自分の考えを書き表す活動を多く取り入れたりする。	国語の「話し手の意図を捉えながら聞き，自分の考えをまとめる」問題や「話し手の意図を捉えながら聞き，話の展開に沿って，自分の理解を確認するための質問をする」問題において，いずれも全国平均を上回っている。普段の学習でペアやグループで互いの考えを伝え合っている成果の表れであると考えられる。今後も効果的なペア学習，グループ学習を取り入れていきたい。
基礎基本の確実な定着を図る指導	全ての学年で，基礎・基本の確実な定着を図るために1時間の授業の「めあて」を児童にしっかり提示し，授業の終末には「ふりかえり」を書く時間を確保している。 朝の時間を活用し，木曜日を算数スキル，金曜日を国語スキルの時間として基礎・基本の定着を図る復習の時間としている。	国語では，同音異義語の漢字を書く問題や，接続語の問題において，全国平均を下回っている。また，算数では，図形の知識・理解，技能において，全国平均を下回っている。授業の中で，習ったことを定着させたり，算数スキル，国語スキルの時間を使って復習したりするなどして，基礎・基本の定着を図る必要がある。
家庭学習の習慣化への指導	家庭学習のヒント集を家庭に配付し，低・中・高学年で目指す家庭学習の時間や内容を知らせている。また，学年に応じて，宿題以外にも自主学習に取り組むようにしている。	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の質問に対して，本校の肯定的回答が93．1％で，全国平均を21．6ポイント上回っている。家庭学習の習慣が身に付いてきていると考えられる。今後も児童の意欲の向上が図られるように留意しながら取り組んでいきたい。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から，国語の同音異義語の漢字を書く問題や，言語についての知識・理解に課題が見られる。また，算数では，数学的な考え方については，全国平均を上回っているものの，図形についての知識・理解については全国平均を下回っている。 これは，昨年度と同じ傾向である。	復習により定着を図る学習の充実	国語では，当該学年で習う漢字については，漢字のもつ意味を考えさせながら漢字練習を行う。また，日常的に漢字のミニテストなどを行い，覚えていない漢字を明らかにした上で練習を行い，定着を図っていく。 算数では，具体物を使って学習を進めることにより，平面や立体の図形をきちんと認識できるようにしていく。また，単元の学習が始まる際，当該学年までに習ったことを復習し，基礎・基本の定着を図りながら学習を進めていく。